

■ 景観計画区域内行為届出書添付資料 景観配慮説明書（エリア別基準用）

○ エリア別基準（東部丘陵里山エリア）への対応

視点	地域らしい景観づくりのポイント	具体的な景観配慮
I 地域の 成り立 ちを知る	山林、集落、農地により形成されている里山の空間の基本構成を尊重するよう努める。	・敷地は、山裾にある既存集落に近い場所を選択し、集落にとけ込んで見えるように配慮した。
	里山の歴史と文化を尊重するよう努める。	・農村集落の原風景を損ねず、歴史ある社寺や伝統行事が引き立つよう、敷地や建築物が目立たないように配慮した。
II 周辺を 見渡す	背後の山並みや稜線との調和に努める。	・周辺道路から建築物が稜線を超えて見えないように、建築物の配置や高さを工夫するとともに、背後の山並みに調和するよう勾配屋根とした。
	大規模な場合は、見え方を工夫し、周辺の自然や既存集落から突出して見えないよう努める。	・建築物を分棟化するとともに、外壁の素材や色彩の使い分けで大きな壁面の分節化を図り、集落の家々の大きさに馴染んで見えるようにした。
	周辺の自然や農地、既存集落等と調和する、落ち着いた形態、意匠とする。	・屋根は、緩やかな勾配の切妻屋根とし、軒の出を確保することで壁面に陰影ができるようにした。また、外壁は、細やかな陰影のできる鋼板スパンデル張りとし、道路側には木目調ルーバーを設け、落ち着いた周辺環境に調和させた。
	周辺の自然や農地、既存集落等と調和する、落ち着いた色彩とする。	・鋼板屋根の色彩は、5YR3.5/0.5とし、集落の瓦屋根に調和させた。外壁の鋼板は、10YR7/2とこげ茶の木目調ルーバー（近似色5YR3/1）を組み合わせ、落ち着いた外観とした。
	周辺の自然や農地、既存集落等と調和するよう、周囲の緑化に努める。	・建築物を敷地境界から後退させ、緑化スペースを確保し、敷地周囲には集落に見られるイヌマキの生垣を設けた。敷地内には自生種の中高木を植栽し、建築物が見え隠れするようにした。
	周辺の自然や農地、既存集落の地形に馴染ませ、巨大な法面や擁壁が生じないよう努める。自然地形の改変は必要最小限とするよう努める。	・自然地形の改変は基本的に行わないこととした。敷地境界で高低差の生じる部分は、緩やかな勾配の法面処理とし、地形に沿って周辺に馴染ませ、自生種で緑化した。
III 細部に 目を向 ける	周辺の自然や農地、既存集落等と調和する素材の使用に努める。	・建築物の屋根や外壁は鋼板としたが、陰影のできる形状や艶消しの仕上げとし、穏やかな表情とした。また、外構は、自然石の利用や緑化を基本とし、人工物が見えにくいように工夫した。
	ゆとりある敷地利用や、既存集落の建物の配置特性との調和に努める。	・広い敷地を確保し、建築物は敷地境界から後退させた。特に、道路のある南側は、壁面を大きく後退させ、集落の特性に調和させた。
	既存集落の昔ながらの建築様式や外構の特徴を尊重し、地域特性との調和に努める。	・建築物は切妻の大屋根の外観とし、屋根勾配や軒の出のバランスを集落の家々と調和させた。外構は、イヌマキの生垣や、地域で採れる石材による野面積みにするなど、細部の意匠にも配慮した。
	既存樹木の保全と活用に努めるとともに、地域の植生や生物多様性に配慮した緑化に努める。	・敷地内にあったシイやカシの大木を保全するとともに、支障になる既存樹は仮移植し、敷地内の植栽に再利用することとした。また、新たに植える緑は、自生種を基本とした。
	適切な維持管理を行うとともに、沿道への草花の飾りつけなど、地域の魅力向上に努める。	・道路側の法面には、季節ごとに花の咲く宿根草を植え、維持管理の負担軽減に配慮しながら、のどかな里山景観の魅力を高めるようにした。